

令和4年第7回玉野市教育委員会 会議録

I 期　日

令和4年5月10日（火）

II 会議時間

開会時間：14時00分

閉会時間：15時15分

III 出席委員

教育長 妹尾 均	教育長職代理者 太宰 実千代
委員 加藤 正枝	委員 三宅 英次
委員 二宮 崇	

IV 欠席委員

なし

V 説明のため出席した職員

教育総務課長 山内 祐樹	学校教育課長 的場 佳代
就学前教育課長 渡邊 まり子	社会教育課長 審藏 光辰

（書記）清山 智保

VI 会議内容

1 開会

2 前回会議録の承認

（1）令和4年第6回教育委員会会議（令和4年4月25日）の議決事項等について

教育長の報告：令和4年3月定例市議会一般質問概要について 他2件

議 事：議案第12号玉野市学校運営協議会委員の委嘱について 他2件

協 議：令和4年度教育委員懇談会実施計画（案）について

報 告：なし

その他：重要課題に関する担当委員について 他3件

（承認）

3 教育長の報告

なし

4 議 事

なし

5 協 議

(1) 令和4年度 玉野市教育行政重点施策（初稿）について

(教育総務課長) 資料により説明

2回の校正を経て、7月1日付で発行予定である。

(太宰委員) p 5 :「宇野港で積極的におもてなし活動をする」という部分が重複している。なくてもよいのではないか。

(社会教育課長) 訂正する。

(加藤委員) 「中高生」から「若者」に修正したのはなぜか。

(社会教育課長) 今まででは中高生の国際交流ということが主目的であったが、コロナで来訪する外国人がほとんどいたため、国際交流というよりは、おもてなしに主軸が移ったためである。

(三宅委員) p 3 :「学習指導要領の理解による」という言葉はいらないと思う。
p 32 :障害者スポーツの記述がもう少しあった方がよいと思う。

(社会教育課長) もう少しクローズアップした記述を推敲する。

(加藤委員) p 5 他 :「地域と共に」などの記述が多い。だから地域の人が誤解して「地域のための学校」という発言につながっているのではないか。現在、適正規模化を進めている中で、「地域の学校」、「地域が学校と」ということを大事にしすぎると、適正規模化が前に進まなくなるのではないか。今年度は、そのような部分を全面的に見直すべきではないか。玉野市は適正規模化を進めているということをもっとアピールしていく必要があると思う。玉野市の子どもたちの未来を考え、適正規模化を何のためにするのか、どのように進めていくのか、地域の人も理解して進めていくことが必要である。地域というのは玉野市全体であって、各学区ではないということをアピールする文章があるとよいと思う。

(教育総務課長) 適正規模化についての記述は検討する。「地域と協働」という言葉については、コミュニティ・スクールを進めている背景を踏まえ、検討したいと思う。

(加藤委員) p 18 :「小規模校で集団教育を推進する」というのはどういうことか。

(学校教育課長)	小規模校は、児童生徒数が少人数であるため、集団での教育活動が図れない状況にある。学校間の共同授業やＩＣＴを活用した遠隔交流授業の実施することにより、集団での取り組みや教育活動の充実を図りたいと考えている。
(加藤委員)	p 19：食育は家庭でするものだと思っている。アレルギーが起きたときにきちんと対応するというような内容の方が保護者にとって大事だと考える。
(学校教育課長)	食育というのは本来家庭すべきことである。様々な家庭の事情、複雑な家庭環境の児童生徒がいる中で、従来は家庭が役割を担っていた部分が、十分対応できなくなってきたところがある。子どもたちが将来生きていくために必要な食事や食生活などの健康的の育成が必要であり、学校においても食育を行う必要がある。
(加藤委員)	私は自分の子どもには嫌いな物は食べなくてよいという方針で育てた。子どもからはあの時に無理に食べさせられなかつたことで食事に対する恐怖がなくてよかったですと言われた。食事は大事なことで健康を守っていかなければいけないとは思うが、先生方のmustの考え方方が違っていると思う。様々な状況の子どもがいる。mustの考え方では給食が怖いものになってしまいます。先生方には、食育とは、「食べなければならない」というものではないという認識を持ってもらいたい。ご飯は楽しいものだ、と思うことの方が大切だと思う。
(三宅委員)	先生の指導の問題だと思っている。食育は大切なことである。以前は、給食時間が終わっててのに一人泣きながら食べている子どもがいたり、嫌いな物を食べられないと言えない子どもがいたりすることに、先生方はもっともっと配慮する必要がある。改めて一度、適切な給食指導について、教育委員会が指導する必要があると思う。以前は完食をしなければいけないというような指導であったが、今の食育では、完食を強制することはしていない。個に応じて食べる量も対応している。子どもたちが食事の楽しさ、食に触れる楽しさ、大切さに気づいて将来につなげていけるような指導である。改めて給食指導の仕方については確認しながら食育の充実を図っていきたい。
(加藤委員)	今の指導が変わってきているのであれば、もう少しきちんとわかるようにしてもらいたい。近頃は、クラスごとの残菜比べがあり、食べられる子どもにたくさん食べさせているらしく、肥満になって困るということを聞いた。そちらについても気を付けて欲しいという声があった。残菜がたくさん出るということは、献立や使っている食材の内容についても検討する必要があるのではないかと思う。
(学校教育課長)	食品ロスが大きな課題となっていることを教える中で、食べられる子どもに食べさせるといったことが起こっているのかもしれない。

	子どもたちの様子を見ながらしっかり対応するようにしていきたい。
(加藤委員)	p 20：すべての食物アレルギーに対応しているようにとれるので修正したほうがよいと思う。
(三宅委員)	p 18：「中学校部活動の適正規模化」は、「中学校部活動の充実を図るための適正規模化」にした方がわかりやすいのではないか。
(二宮委員)	コロナに関する対策というのは別に作成しているのか。様々な活動がコロナ禍でも形を変えて実施できる方法を考えていかなければならないと思う。全体的なところでの記述があった方がよいのではないか。
(加藤委員)	大事なことではあるが、教育行政重点施策に記述する必要はないのではないか。その時その状況にあったことを学校現場で柔軟に対応してもらっている。
(妹尾教育長)	その都度学校・園には、状況が変わる度に通知している。重点施策に記述する性格のものではないと思う。
(二宮委員)	その時の状況で柔軟に対応していくというようなことを記述したらよいのではないか。実際にかなり影響を受けている行事が多い。
(太宰委員)	そのとおりであるとは思うが、重点施策の中には加えなくてもよいと思う。
(学校教育課長)	昨年度までは中止や制限・制約があつてできないことも多かった。今年度は学校や地域の実態や実情に応じて、工夫しながら教育活動をやっていくことで進めている。感染対策、感染防止をした上で、さらに教育活動を充実させるために、できる方法、できるタイミングを学校でしっかりと考えながら進めていっている。
(太宰委員)	p 1、p 4：「保護者相互」、「保護者同士」と記述が異なっている。
(社会教育課長)	記述を検討する。
(三宅委員)	p 27：電灯トランス更新工事は、PCB案件と思うが、まだ残っているのか。
(教育総務課長)	高濃度については終了しているが、低濃度に関しては、まだある。処理期限が決まっているので計画的に進めている。

6 報 告

(1) 令和4年度教育委員による学校等視察の日程について

(教育総務課) 資料により説明

(2) 令和4年度教育委員懇談会実施計画（案）について

(教育総務課) 資料により説明

次回、教育委員会定例会は令和4年5月24日（火）14:00から開催するので参集願います。以上で、令和4年第7回教育委員会を閉会します。

会議録調整者　　書記　　清山　智保

会議録署名委員　　教育長　　妹尾　均

教育長職務代理者　太宰　実千代

